

Peptide Immobilizing Kit

Peptide solid phase maker for ELISA

取扱説明書

Beacle, Inc.
KYOTO JAPAN

--- 目 次 ---

(1) はじめに	2
(2) 製品内容	2
(3) 保存	2
(4) 使用方法	2
(5) お問い合わせ先	2

ご注意

本試薬は研究用試薬です。診断・臨床用試薬としては使用しないでください。

本製品の SDS は、当社 HP (https://beacle.com/download_jp/)よりダウンロードできます。

(1) はじめに

ペプチドは、タンパク質固相化用 ELISA プレートには固相化することが難しい場合があります。そのため特殊な表面処理を行ったプレート、例えばアミノ基と結合する官能基を有したアミノプレートなどが使われます。しかし特殊表面処理のプレートは価格が高く、何時も手元にあるわけではありません。Peptide Immobilizing Kit はペプチドを簡単な処理で BSA とのコンジュゲートを作らせ、高効率に通常のタンパク質固相化用 ELISA プレートに固相化するキットです。

(2) 製品内容

本製品には以下の種類があります。本マニュアルは以下の製品に適用されます。

商品番号	商品名	内容量
BCL-PIK-01	Peptide Immobilizing kit	1 キット(3 回分)

構成試薬

- ・BSA 溶液(BSA solution for immobilization) 1 本
- ・コンジュゲート反応液(Conjugate reaction Solution) 1 本
- ・反応ストップ剤(Reaction Stop agent) 3本
- ・2 x 固相化バッファー(2 x Coating Buffer) 1 本

(3) 保存 4℃で保存下さい。

(4) 使用方法

- ペプチド抗原と BSA 溶液の混合
PBS に溶解したペプチドを BSA 溶液(1mg/mL)と混合する。基本の混合条件はペプチド(1mg/mL) 250 μ L と BSA 溶液 250 μ L ですが、ペプチドにより混合比を調節して下さい。この時、全量 500 μ L と BSA 溶液 250 μ L を変えなければ、ペプチド濃度を 2 倍程度の範囲で変更しても調製可能です(注1)。
- コンジュゲート反応液を混合液に加えコンジュゲートを形成させる。
混合液を 4℃に移し、これにコンジュゲート反応液を 50 μ L 加え転倒混和し 30 秒放置する。同じ操作をさらに 4 回繰り返す、合計で 250 μ L のコンジュゲート反応液を加える。この後、4℃で 60 分間反応を進ませる。なお、60 分間の反応中に時々転倒混和して下さい。
- コンジュゲート反応の停止
混合反応液を 4℃から取り出し、反応ストップ剤(粉末)の 1 回分全量を加え、反応を停止する。この時、気体(注 2)が発生しますのでチューブのふたは開けておいてください。発生が終わるまで静置して下さい。
- 固相化バッファーの添加と固相化
まず、2x 固相化バッファーを精製水で 2 倍に希釈してください。
反応を停止したコンジュゲート液を、目的とするペプチド固相化濃度になるように固相化バッファーに加え、プレートを固相化する。固相化時間は 30 分以上 3 時間以内として下さい。
- コンジュゲート液の保存と再利用
調製したコンジュゲート液は 4℃で保存した場合、1 週間以内は再利用出来ます(注 3)。

【注 1】 混合比や混合液量はあくまで目安です。ご自身で確認されることをお勧めします。

【注 2】 発生する気体は水素です。微量ですが、火気には注意下さい。

【注 3】 コンジュゲートの保存や再利用はペプチドによって異なる場合があります。

(5) お問い合わせ先

株式会社ビークル 【製造・発売元】

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町 14-1

TEL: 075-762-5055 FAX: 075-762-3055

E-mail: technical-support@beacle.com

Website: www.beacle.com